



◇表紙カラーが素敵です。私個人としては、アメリカの大学のように、行きたい高校に皆が入学でき、成績がふるわない学生は落第するが、下のランクの高校に編入できるみたいな流動的なシステムが群馬県としてできるようなとおもしろいのではないかと思えます。もちろん逆もしかり。入

学してから勉強が好きになって編入試験で上のランクの高校の2年から通学も。中学の先生が高校の可否の基準がわからず、安全な方向へ生徒を誘導してしまうことも生徒のやる気はなくさせてしまっていると思いました。

(玉村町 伊田 志保)

◇No.54の『私たちに、今何ができるか?』前女生たちが挑む「探求型学習」では、「『探求』という語をキーワードの一つに掲げる新学習指導要領が2022年度の高校一年生からスタートしましたが」という記述から、実際に『探求』が教育現場でどのように取り上げられているのか?が紹介されていました。「『探求型学習』が新学習指導要領に盛り込まれました」

という事実自体は各種報道で目に、耳にする機会がありますが、実際にそれがどのような形で教育現場において扱われているか、生徒がどのように受け止めているかの報道に触れる機会はほとんどありません。『育ちと学び』はその例外的なメディアとして大変貴重なものです。実際に記事の中で紹介されている前橋女子高校の授業内容、生徒のプレゼンを読むにつけ、生の教育現場の状況を知ることができただけなく、現場で行われている内容のレベルの高さに感心してしまいます。高校生の頼もしさを感じました。プレゼンで取り上げられている数々の問題を作り出し、解決に至っていない私たち大人の責任も同時に感じざるを得ません。

さらに教育現場の状況レポートだけでなく、「たとえAIや情報端末の助けがあるにしても、あふれかえる情報から個々の主体的な思考によって検討に値するものを吟味し、真摯な対話によって地に足のついた解決策を地道に練り上げることが、今の時代では何よりも求められているのではないでしょうか」という取材された方の感想、「示唆は勉強になり、考えるきっかけを与えてくれることも大変ありがたいです。その示唆は他の記事『発信に特性がある子どもへのICT活用で広がる可能性』内の、「かつて勉強は、『知識で差がつくもの』であった。やが

て『経済格差が学習経験の差』になり、問題視されるようになった。一人一台端末の活用で、(その気になれば)いつでもどこでも学びにアクセスできるようになった今、生徒自身が『やるか、やらないか』が学習成果を左右するという記述とリンクさせることでより深味が増します。記事間でのリンクをたびたび感じられるのも『育ちと学び』の魅力だと思います。今後も「教育現場」の情報、検証を期待しています。

(高崎市 成瀬 雅俊)

◇表紙のかわいいインの作品がいいですね。「スクールカウンセラーだより」の「陽だまり」という詩についての感想がとても興味深いと感じました。「ひとりが好きな」者とうしがお互いに惹かれあい静かに時を過ごす。選者はそれを「豊かな時間」と表現しました。多弁を慎むことでお互いの思いが伝わる。自分と実家の母との関係の中でもいつも感じていたことだったので、連絡をとり合えなくても心は通じているということに心が温かくなりました。

去年の秋から3色パステル画子屋に新しく親子が増えました。5歳になったばかりの女の子とお母さんです。とてもかわいい子です。

(高崎市 二口 孝絵)